

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師・理容所に関連する法規を理解させることによって、理容師・理容所開設者が持つべき社会的責任の重さを学生に認識させ、さらに、責任を持って理容の業を実践していくことが社会貢献であるとしてその職業意識を育成していくことを目的とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1章「法制度の概要」 道徳慣習などの社会生活に身近な社会規範から、法の概念、憲法など法律の種類および衛生法規。 第2章「衛生行政の概要」 衛生行政の意義・歴史、衛生行政の種類、厚生労働省の機構、保健所の役割。 第3章「理容師法・美容師法」 理容師法の歴史、現在の理容師法の体系、理容師/理容所の法律上の定義、理容師の資格関連法規、理容所業務関連法規、環境衛生監視員の立入検査や違反者等に対する行政処分・罰則。 第4章「関連法規」 生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、その他、独立経営に際して必要となる諸法規、地域保健や感染症関連の法規等。
評価方法	法律に関心を持って学習しようとしているか、法律一般について意欲的に理解しようとしているか等を評価します。また法律関連の事柄から課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察しているかどうか、さらに学習を通じて思考力や判断力が身に付いているかどうか等評価します。テスト法を中心として評価し、各学期1回定期試験を実施、100点満点中60点を合格とします。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	「衛生管理」第1編 第1章 公衆衛生の概要、第2編 第1章 環境衛生、第2章 理容所・美容所の環境衛生、第3編 第1章 感染症の総論、第2章 理容・美容と感染症、第4編 第1章 消毒法総論、第2章 消毒法各論、第3章 消毒法実習
テキスト及び参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「関係法規・制度」テキスト

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	
------------------	--

授業計画表

教科名	関係法規・制度						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	法制度の概要	法の役割・法とは何か・法の実際
3～4	衛生法規の概要	衛生法規の意義・分類・概観
5～6	衛生行政の概要	国と地方の行政・衛生行政の意義と歴史・衛生行政の動向
7～8	衛生行政の種類と行政機関	衛生行政のしくみ・保健所の役割と機構
9～10	美容師法	美容師法の目的と歴史・美容師法の構成
11～12	用語の定義	美容・美容師・美容所
13～14	美容師	美容師養成施設・美容師試験・免許と登録
15～16	美容師	管理美容師・業務に従事する美容師の義務
17～18	美容所	美容所の開設
19～20	美容所	美容所開設者が講ずべき衛生措置・美容所以外での業務
21～22	立入検査	立入検査・環境衛生監視員
23～24	行政処分	行政処分・行政処分手続き・審査請求・意義申立て
25～26	罰則	罰則
27～28	関係法規	生衛法・地域保健法・感染症
29～30	関係法規	労働基準法・消費者基本法・廃棄物処理法・美容師法の課題

教育目標 ねらい (到達目標)	美容師・美容所に関連する法規を理解させることによって、美容師・美容所開設者が持つべき社会的責任の重さを学生に認識させ、さらに、責任を持って美容の業を実践していくことが社会貢献であるとしてその職業意識を育成していくことを目的とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1章「法制度の概要」 道徳慣習などの社会生活に身近な社会規範から、法の概念、憲法など法律の種類および衛生法規。 第2章「衛生行政の概要」 衛生行政の意義・歴史、衛生行政の種類、厚生労働省の機構、保健所の役割。 第3章「美容師法・美容師法」 美容師法の歴史、現在の美容師法の体系、美容師/美容所の法律上の定義、美容師の資格関連法規、美容所業務関連法規、環境衛生監視員の立入検査や違反者等に対する行政処分・罰則。 第4章「関連法規」 生活衛生関係営業の料金等の規制や同業組合、振興計画、その他、独立経営に際して必要となる諸法規、地域保健や感染症関連の法規等。
評価方法	法律に関心を持って学習しようとしているか、法律一般について意欲的に理解しようとしているか等を評価します。また法律関連の事柄から課題を見出し、それらを多面的・多角的に考察しているかどうか、さらに学習を通じて思考力や判断力が身に付いているかどうか等評価します。テスト法を中心として評価し、各学期1回定期試験を実施、100点満点中60点を合格とします。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	「衛生管理」第1編 第1章 公衆衛生の概要、第2編 第1章 環境衛生、第2章 理容所・美容所の環境衛生、第3編 第1章 感染症の総論、第2章 理容・美容と感染症、第4編 第1章 消毒法総論、第2章 消毒法各論、第3章 消毒法実習
テキスト及び参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「関係法規・制度」テキスト

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	
-------------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	公衆衛生の意義と課題	健康と公衆衛生の定義について学ぶ
3	欧米の公衆衛生の歴史	歴史上の人物について学ぶ
4	我が国の歩み	明治維新からの新しい制度を理解
5	消毒法の歴史	微生物の存在について学ぶ
6～7	母子保健	出生率・乳児死亡率について学ぶ
8～9	成人、高齢者保健	死亡率、平均寿命を理解する
10～12	生活習慣病	がん、心臓病、糖尿病について学ぶ
13	高齢者の保健と福祉	医療制度と介護保険を学ぶ
14	精神保健	心の健康づくりについての理解
15～17	環境衛生	環境の内容と目的意義について学ぶ
18～19	空気、温度、湿度、気流	空気の成分、不快指数について理解
20～22	衣服、住居の衛生	衣服の目的、照明、冷暖房について学ぶ
23～24	上水道	水の目的、浄水などの理解
25～26	下水道と一般廃棄物	し尿処理や、ごみ処理などを理解
27～28	衛生害虫	ハエ、ゴキブリの生態のを学ぶ
29	人獣共通感染症	ペスト、狂犬病、オウム病について学ぶ
30	環境保全	水質汚濁を学ぶ

教育目標 ねらい (到達目標)	自分自身の身近な環境と衛生、地域とのつながりにおける衛生を知る
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	公衆衛生の歴史から、環境について
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋 秀典[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	公衆衛生の意義と課題 公衆衛生発展の歴史	世界的な動きと日本での公衆衛生サービスを考える と日本の公衆衛生を理解し比較してみる。 欧米
3	理容師美容師と公衆衛生 保健所と美容業	理美容師の社会的な在り方を問う。
5	保健所と美容業	保健所の事業と理美容業の関係を確認。
6	保健・母子保健①	出生数、出生率、合計特殊出生率などを教科書記載の調査数値を含めて説明。
7	保健・母子保健②	乳児死亡率、妊産婦死亡率などを母子保健法と絡めて覚える。
8	保健・成人・高齢者保健・精神保健	死亡率、死亡要因、平均寿命を教科書記載の調査数値を含めて説明。
10	保健・成人・高齢者保健・精神保健	高齢者保健、介護保険制度・精神疾患に関する要因と、地域精神福祉の概要を説明。
11	環境衛生の概要	環境衛生の目的と意義、活動などを説明。
12～13	空気環境、温熱環境	大気中の空気組成、温熱環境の現在を説明。
14～15	衣服、住居	衣服の衛生、住居の採光、換気、冷暖房。
16	上水道	上水道の現在 (供給過程、浄水操作、水質基準) の現在説明。
17	下水道・廃棄物①	下水道と廃棄物の現在を各自の生活様式を考えながら環境との関連を覚える。
18	廃棄物②	下水道と廃棄物の現在を各自の生活様式を考えながら環境との関連を覚える。
19	衛生害虫	各衛生害虫のもたらす外と、水質汚濁に対する取組を説明。
20	ネズミ・環境保全	ネズミの害と駆除方法、水質汚濁の原因と対策を紹介し考える。
21～22	感染症総論 人と感染症・歴史	中性から現在までの感染症との戦いの歴史を紹介し、感染症学の大事さを伝える。
23～24	法律・分類	法による分類・侵入経路による分類・微生物による分類を紹介し、項目によっては暗記させる。
25～26	病原微生物①	微生物の種類、形、大きさの詳細を伝え理解を深める。
27～28	病原微生物②	微生物の構造、生活環境などを伝え理解を深める。
29～30	感染症の予防	微生物の病原性、人体の感受性、感染症発症の要因と予防の3原則を説明し、理解させる。

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る。
評価方法	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に自分と関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	関係法規、美容保健
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1	感染症発見の歴史	微生物の発見からウイルス、ワクチン等について学ぶ
2～8	感染症の法律上の分類・侵入経路	一類から五類について学ぶ
9～12	病原体別による分類	細菌、リケッチャ、ウイルスについて学ぶ
13～15	微生物の種類と構造	芽胞、球菌、桿菌、大きさを学ぶ
16～17	微生物の増殖と環境	温度、水、栄養の必要性を学ぶ
18～21	感染症の予防	病原性、感染、予防接種を学ぶ
22～24	感染症発生の要因と予防の3原則	感染源、感染経路、宿主について学ぶ
25～30	感染症の各論	一類～五類まで具体的に学ぶ
31～32	消毒の意義	細菌、消毒、滅菌について学ぶ
33～34	消毒の法令と理学的消毒法	紫外線、煮沸、蒸気、消毒について学ぶ
35～37	化学的消毒法	5つの薬品に対する消毒を学ぶ
38～43	消毒法実習	百分率、希釈倍数、計算問題、消毒薬の容器
44～46	理容器具等の消毒法	どの消毒法が良いか、なぜ悪いかを学ぶ
47	理容所清潔法の実際	毛髪、衛生害虫、布片、器具などを清潔にすることを学ぶ
48～49	法則で規定されている特徴	血液の付着、または、疑いのある器具の消毒について学ぶ
50～52	衛生管理の実践	施設、設備器具の衛生について学ぶ
53～55	衛生管理の実践	作業所の採光、照明、換気、洗い場、廃棄物について学ぶ
56～60	衛生管理の実践	従業者の管理、消毒薬の自主管理

教育目標 ねらい (到達目標)	感染症について、的確な知識、技能を会得
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	感染症の具体例と消毒法についての実習
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	衛生管理						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋 秀典[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～4	2章感染症各論 / 主な感染症①	呼吸器を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
5～8	主な感染症②	消化器、血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
9～12	主な感染症③	血液、動物を介しての感染症を具体例を中心に確認させる。
15～17	具体的な対策の例	現実の予防策と、店内感染の対策を説明。
18	4編 衛生管理技術 1章 消毒総論 消毒法とは	病原微生物がと非病原微生物、消毒の原理を解説。
19～20	消毒の意義	汚染・感染・発病と消毒について、又殺菌・消毒滅菌・防腐の定義を覚える。
21～23	理美容の業務と消毒との関係	各消毒に関する法の規定と、怠った場合の危険と責任を説く。
24～25	消毒法と適用上の注意	消毒法の種類、殺菌に必要な条件、病原微生物の抵抗力、消毒薬保存上の注意。
26～27	2章消毒法各論 / 理学的消毒法	紫外線・煮沸・蒸気消毒の詳細、その他の理学的消毒法の紹介。
28～31	化学的消毒法	エタノール・次亜塩素酸・逆性石鹼、両性界面活性剤製剤・グルコン酸クロルヘキシジン・その他化学的消毒法の紹介。
32～33	優れた消毒法の条件	優れた消毒法の条件と、消毒を行う際の注意点。
34～35	3章消毒法実習 / 各種消毒薬	消毒薬の概要、器具の使い方、常備する消毒薬と希釈の仕方。
36～37	理美容所の消毒の実際	サロンにおける消毒お原則、消毒設備、用途に合った消毒の選定、手指の消毒、サロンの消毒の現状。
38～39	理美容所の消毒の実際	清潔保持と清掃、洗剤による洗浄、洗い場の構造、カットした毛の処理と汚物箱の洗浄、衛生害虫の駆除。
40～41	5編 衛生管理実践例 1章 理美容所における衛生管理要領	衛生的取り扱い、自主管理体制を紹介・確認。
42～43	美容所の自主管理点検表	自主管理点検表の詳細を確認。
44～45	消毒法実習	実際の消毒薬や消毒設備を使って汚染器具の消毒を行うグループワーク。
46～50	国家試験対策問題	過去問題、練習問題を解説。

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンの現状を教えつつ衛生管理の重要性を理解させる。実際の消毒ができるところまで教育する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書を中心に、画像・関連資料を紹介し、理解の動機付けを図る
評価方法	授業態度、定期試験の成績、まとめプリントの完成度を見る
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	学んだことが現実に自分と関係してくることを意識するよう指導するので、将来の自分をイメージしながら受講することを薦める
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	関係法規、美容保健
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 衛生管理

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～6	人体外部の名称	体の部位の名称の取得
7～9	骨格	骨のはたらきと名称
10～12	筋	筋の構造と名称
13～16	神経	脳のはたらきと構造、自律神経
17～19	感覚	五感とその他の感覚を体感する
20～21	血液	成分とそのはたらきを理解する
22～24	循環	心臓と血圧を学ぶ
25～27	呼吸	肺の仕組みと気道を学ぶ
28～31	消化	食物と栄養、消化管の名称を学ぶ
32～36	皮膚の構造と断面	ケラチンやメラニンをつくる細胞を学ぶ
37～38	真皮	コラーゲンや、エラスチンを学ぶ
39～40	皮下組織	体内脂肪について学ぶ
40～42	毛の構造と断面	毛の名称について学ぶ
43～45	毛の型と性状	毛の成分について学ぶ
46～47	立毛筋	構造とはたらきについて理解する
48～52	脂腺と汗腺	どのような分泌腺か理解する
52～55	爪	構造と成分について学ぶ
56～60	皮膚の循環と神経	皮膚の色と知覚を理解する

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～6	人体外部の名称	体の部位の名称の取得
7～9	骨格	骨のはたらきと名称
10～12	筋	筋の構造と名称
13～16	神経	脳のはたらきと構造、自律神経
17～19	感覚	五感とその他の感覚を体感する
20～21	血液	成分とそのはたらきを理解する
22～24	循環	心臓と血圧を学ぶ
25～27	呼吸	肺の仕組みと気道を学ぶ
28～31	消化	食物と栄養、消化管の名称を学ぶ
32～36	皮膚の構造と断面	ケラチンやメラニンをつくる細胞を学ぶ
37～38	真皮	コラーゲンや、エラスチンを学ぶ
39～40	皮下組織	体内脂肪について学ぶ
40～42	毛の構造と断面	毛の名称について学ぶ
43～45	毛の型と性状	毛の成分について学ぶ
46～47	立毛筋	構造とはたらきについて理解する
48～52	脂腺と汗腺	どのような分泌腺か理解する
52～55	爪	構造と成分について学ぶ
56～60	皮膚の循環と神経	皮膚の色と知覚を理解する

教育目標 ねらい (到達目標)	理・美容師としての人体について体調管理や精神的な面も強化する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教科書全般ではなく、さらに掘り下げて現場と時代の動きとともに学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○	○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	皮膚の生理機能 外力や光線に対する	外力や光線に対してどのように保護しているかを学ぶ
3	体温調節作用	暑いとき寒いときの皮膚がどのようになるかを学ぶ
4	知覚作用	皮膚の感覚を学ぶ
5～7	分泌排泄作用	皮脂と汗の分泌、及び酸膜を理解する
8～9	呼吸と吸収作用	皮膚からはどのような物質が吸収されるのかを学ぶ
10～11	免疫・再生作用	傷がなぜ治るのかを学ぶ
12～14	皮膚と全身状態	体内の器官が障害を受けると皮膚の変化を学ぶ
15～16	皮膚の水分と脂の状態	しわ、乾皮、あぶら性について理解する
17	ホルモンの影響	男性ホルモン、女性ホルモンが作用することを理解する
18～19	皮膚の保護と手入れ	ひげそりあとの手入れ、ふけ症について学ぶ
20～21	皮膚の異常と接触性皮膚炎	皮膚疾患による変化を学ぶ
22	温熱・寒冷の障害	熱傷、凍傷を理解する
23～24	色素異常、角化異常	原因が何かを学ぶ
25～27	化膿菌、ウイルス、真菌による異常	感染症による皮膚疾患を理解する
28～29	衛生害虫の影響と、毛、爪の異常	害虫による皮膚の異常を学ぶ
30	皮膚の腫瘍	皮膚の癌について理解する

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習 理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	保健						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	中山 武[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	皮膚の生理機能 外力や光線に対する	外力や光線に対してどのように保護しているかを学ぶ
3	体温調節作用	暑いとき寒いときの皮膚がどのようになるかを学ぶ
4	知覚作用	皮膚の感覚を学ぶ
5～7	分泌排泄作用	皮脂と汗の分泌、及び酸膜を理解する
8～9	呼吸と吸収作用	皮膚からはどのような物質が吸収されるのかを学ぶ
10～11	免疫・再生作用	傷がなぜ治るのかを学ぶ
12～14	皮膚と全身状態	体内の器官が障害を受けると皮膚の変化を学ぶ
15～16	皮膚の水分と脂の状態	しわ、乾皮、あぶら性について理解する
17	ホルモンの影響	男性ホルモン、女性ホルモンが作用することを理解する
18～19	皮膚の保護と手入れ	ひげそりあとの手入れ、ふけ症について学ぶ
20～21	皮膚の異常と接触性皮膚炎	皮膚疾患による変化を学ぶ
22	温熱・寒冷の障害	熱傷、凍傷を理解する
23～24	色素異常、角化異常	原因が何かを学ぶ
25～27	化膿菌、ウイルス、真菌による異常	感染症による皮膚疾患を理解する
28～29	衛生害虫の影響と、毛、爪の異常	害虫による皮膚の異常を学ぶ
30	皮膚の腫瘍	皮膚の癌について理解する

教育目標 ねらい (到達目標)	皮膚疾患について理解する
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	皮膚についての多面的な部分を学習する
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出席状況
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習 美容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容・美容保健

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品にかかわる化学的知識を身につける
授業の概要	テキスト巻末の化学の基礎知識をしっかり定着させ、次に学習していく香粧品の内容についての理解をを深めさせる
評価方法	テスト、出欠状況、授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上を合格とする
資格対応	理容師・美容師 国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

教育目標 ねらい	理美容に使用する香粧品の知識を身につける
授業の概要	香粧品の原料、肌の香粧品、毛髪にかかる香粧品を中心に テキストの内容についての理解を深めさせる
評価方法	定期テスト 出席状況 授業の受け方・態度
受講心得	定期テストで60点以上の合格
資格対応	理容師、美容師、国家試験受験資格
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター発刊 香粧品化学

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	名古屋市立中学校において理科を指導。
----------------------	--------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準			
到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。
※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。
[Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
[Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
[Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
[Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	理容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高木友明[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	文化論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高木友明[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	日本ファッション文化史 現代Ⅱ	戦後経済復興により、シーズンごとの流行色などをアピールの消費を促した。若者ファッションの流行。
3～5	現代Ⅲ	女性の社会進出、性のボーダレス化。茶髪の流行とガングロ、マスカラ、ツケマツゲ多様化するファッションを学ぶ
6～7	古代エジプト、古代ギリシャ 古代ローマ、古代ゲルマン	地中海地方を中心に古代文明が発生、各文化圏の髪型、ファッション化粧を知る。
8～9	中世ヨーロッパ	キリスト教の身体への否定的思考が強く、体を覆い隠す文化であった。
10～11	近世Ⅰ 16世紀	ルネサンスの時代制圧から個人の人間に目が向けられた。ファッションは貴族たちに独占された。
12～13	近世Ⅱ 17世紀	王とカトリック教会の権力を誇示する時代。長いかつらが流行。ベルサイユ宮殿
14	近世Ⅲ 18世紀	王朝を中心に華麗な貴族たちのファッション、大臣の髪型、スカートファッション。
15～16	近代Ⅰ 18世紀末～19世紀初	フランス革命により市民の権利意識が高まり貴族的なファッションはすたれた。
17～18	近代Ⅱ 19世紀	産業革命によりブルジョア社会が拡大した。女性は巨大なスカートがはやった。
19～20	現代Ⅰ 1910～1920	パーマネントウェーブが登場。男性は背広が定着していく。スポーツが流行していく。
20～21	現代Ⅱ 1930～1940	第2次世界大戦に向かい、自由な気風は影を潜めた。
22～23	現代Ⅲ 1940～1950	映画スターの髪型の影響が大きく、ショートカットが流行する。コールドパーマネントウェーブが普及
24～26	現代Ⅳ 1960年代	若者文化に寄り添うヘアスタイル、ビートルズ、モヒカン等があげられる。
27～28	現代Ⅴ 1970年代	多種多様な若者文化とヘアスタイル。日本人デザイナーの活躍。
29	現代Ⅵ 1980年代	女性の職場進出を反映して実用的なスーツが流行。
30	現代Ⅶ 1990～2010	ベルリンの壁が崩壊し国や政治経済の枠組みが崩れた時代。多様なファッションが反映した。

教育目標 ねらい (到達目標)	日本の髪型・服飾文化を時代の流れと共に理解する。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	講義形式において授業を進める。
評価方法	①定期試験 ②授業の出欠状況 ③受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上をもって合格とする。
資格対応	国家試験筆記試験
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 文化論

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	経営とは・経営者とは	経営が必要とされる理由・経営が難しい理由・経営とは何か
3～4	経営とは・経営者とは	経営資源と経営計画・経営戦略・経営戦略が目指すもの
5～6	理容業の経営について	業界の概要・競争の変化・サービスとしての理容
7～8	理容業の経営について・資金の管理	理容業の顧客について・資金管理の重要性・収支と損益
9～10	資金の管理	会計の考え方・コスト管理・税金について
11～12	人という資源	人という資源とは・人の能力を高める・人をやる気にさせるために
13～14	人という資源	給与・待遇、福利厚生・労働者の権利
15～16	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・理容の仕事と健康・理容業に特徴的な健康課題
17～18	健康・安全な職場環境の実現・従業員としての視点から	理容の作業環境に関する健康問題・社会人としての責任、理容業の従業員としての責任・公的年金
19～20	従業員としての視点から	医療保険・労働保険・キャリアプランの重要性
21～22	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・顧客が求める価値・価値の実態
23～24	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・最も重要な価値「人」・価値の多様性 顧客が求めるもの
25	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・理容業のマーケティング・マーケティングミックス
26	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因 (短期・長期)
27	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ミックスの要因 (長期)・サービスのシステム化・接客についての理解
28	サービスにおける人の役割	よい接客のために・接客の実践①②
29	サービスにおける人の役割	接客の実践③④⑤
30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処

教育目標 ねらい (到達目標)	経営とは何か。経営とは何を目的に、どのようなことを行っていかとといった、経営の基礎を理解。また人を雇うことの責任や働く上で求められることについての理解や顧客が喜んでくれるサービスがどのように創られ提供されるのか。その背景にある考え方や方法の理解を目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行方が別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	理容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	運営管理						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	1 (30時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	山口 孝[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	経営とは・経営者とは	経営が必要とされる理由・経営が難しい理由・経営とは何か
3～4	経営とは・経営者とは	経営資源と経営計画・経営戦略・経営戦略が目指すもの
5～6	美容業の経営について	業界の概要・競争の変化・サービスとしての理容
7～8	美容業の経営について・資金の管理	美容業の顧客について・資金管理の重要性・収支と損益
9～10	資金の管理	会計の考え方・コスト管理・税金について
11～12	人という資源	人という資源とは・人の能力を高める・人をやる気にさせるために
13～14	人という資源	給与・待遇、福利厚生・労働者の権利
15～16	健康・安全な職場環境の実現	健康管理の基礎・美容の仕事と健康・美容業に特徴的な健康課題
17～18	健康・安全な職場環境の実現・従業員としての視点から	美容の作業環境に関する健康問題・社会人としての責任、美容業の従業員としての責任・公的年金
19～20	従業員としての視点から	医療保険・労働保険・キャリアプランの重要性
21～22	従業員としての視点から・サービスデザイン	仕事をするうえで考えるべきこと・顧客が求める価値・価値の実態
23～24	サービス・デザイン	顧客満足の実現のためのシステム・最も重要な価値「人」・価値の多様性 顧客が求めるもの
25	サービス・デザイン、マーケティング	サービスの範囲・美容業のマーケティング・マーケティングミックス
26	マーケティング	マーケティング・ミックスの要因 (短期・長期)
27	マーケティング・サービスにおける人の役割	マーケティング・ミックスの要因 (長期)・サービスのシステム化・接客についての理解
28	サービスにおける人の役割	よい接客のために・接客の実践①②
29	サービスにおける人の役割	接客の実践③④⑤
30	サービスにおける人の役割	接客におけるトラブルと対応・接客で発生が予想される問題・問題を深刻化させないための対策・対処

教育目標 ねらい (到達目標)	経営とは何か。経営とは何を目的に、どのようなことを行っていくかといった、経営の基礎を理解。また人を雇うことの責任や働く上で求められることについての理解や顧客が喜んでくれるサービスがどのように創られ提供されるのか。その背景にある考え方や方法の理解を目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	第1編「経営者の視点」 経営が必要とされる理由から経営資源・経営計画・経営戦略が目指すものの概念をとらえ、それを理容業に当てはめる。資金管理に焦点をあて、資金管理の重要性、収支と損益、会計、コスト、税金についての理解。 第2編「人という資源 従業員としての視点」 経営資源のうち、「人」に注目し、人という資源の特徴、給与・福利厚生・労働者の権利から健康安全な職場環境実現への課題、従業員としての視点から社会保険（年金・医療・労働）を考える。 第3編「顧客のために」 顧客が求める価値や満足の実現、その価値の実態や多様性を考えた上でマーケティングに対する要因の見方考え方を考察する。最後にサービスにおける人の役割として「接客」について考える。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行方が別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティール専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験
関連科目	美容総合理論「サービスマナー」
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「運営管理」テキスト

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
------------------------------	--

授業計画表

教科名	理容技術理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	磯部臣史[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1	序章 理容技術を学ぶにあたって	効率よく技術を習得するために技術理論を学ぶことを理解する
2～4	第1章理容技術の基礎①	人体各部の名称について、人の頭部顔部を施術する理容技術のため名称を正しく学ぶ
5～7	理容技術の基礎②③	理容技術における技術姿勢について、安全で正確な技術を行うために正しく理解する
8～11	第2章理容用具①②③	理容用具について、基礎的な知識を学び衛生的な取り扱いや物を切る原理を学ぶ
12～16	理容用具④⑤⑥	シザーズ、レザー、クリッパーという理容の主になる用具について名称から機能まで学ぶ
17～20	理容用具⑦⑧⑨⑩⑪	コームやブラシなどそれぞれの名称から機能までを学ぶ
21～24	第8章シェービング①②③	理容の主要な技術であるシェービングについて、特に皮膚とひげのことを十分理解する
25～28	シェービング④⑤	シェービングの基本技術と要領についてレザーの扱い方操作の原理など十分に理解する
29～32	シェービング⑥⑦⑧	国家試験技術にもあるメンズシェービングについて技術的な観点から理論的に学ぶ
33～34	シェービング⑨	レディースシェービングについて女性の繊細な肌に効果的に技術を行うための知識を理解する
35～38	第9章理容エステティック①②	エステティック本来の目的が人間の内面的部分まで及ぶ総合的なものであることを学ぶ
39～42	理容エステティック③	国家試験技術にもあるフェイシャルケアについて技術的観点から理論を学ぶ
43～44	理容エステティック④⑤⑥	ネイルなどのハンドケアやフットケアなどエステティック分野にある心地よさが伝わる技術を学ぶ
45～46	第12章理容マッサージ①②③④	理容で行うマッサージについて理解し手技を学ぶ
47～50	第3章ヘアデザイン①②③	技術と同時に必要なヘアデザインについて造形の原理や条件を学ぶ
51～54	第4章カッティング①②③	ヘアスタイルを実際に作る手段として髪を切る技術であるカッティングについて理解する
55～57	カッティング④⑤⑥⑦⑧	カッティングの基本的な条件や原理について学びスタンダードヘアのスタイルを学ぶ
58～60	カッティング⑨⑩⑪⑫	デザインヘアを作るための基本原則や考え方を学ぶ

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論1・理容技術理論2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を身につける。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 理容技術理論1・理容技術理論2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	水野 亮[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	序章 美容技術を学ぶにあたって	理論と技術、作業姿勢、人体各部の名称を説明し暗記させる
3～8	1章 美容用具	美容道具・器具・機械・コーム・ブラシ・シザーズ・レザー・ピン・ロッド・ローラー・ヘアアイロン・ヘアドライヤー・ヘアスチーマー・遠赤外線機を個別に説明し現場での現在も伝える
9～14	2章 シャンプーイング①	シャンプーイング総論、サイドシャンプー、バックシャンプーの理論と技術手順を紹介
15～16	シャンプーイング②	リンス・コンディショナー・トリートメントの内容成分と効能を説明
17～20	シャンプーイング③	スカルプトリートメント、ヘッドスパの知識と手順を説明
21～24	5章 パーマネントウエービング①	歴史と現在、ウエーブ理論、パーマ材の分類、パーマに関する注意事項は要必須項目なのでしっかり伝える。
25～26	パーマネントウエービング②	パーマ技術・バリエーション・縮毛矯正を紹介
27～28	8章 エステティック①	エステティック概論、皮膚の構造、カウンセリングの大事さを伝える。
29～30	エステティック②	マッサージ理論、フェイシャルケア、フェイシャルケア・デコルテマッサージは要所なのでしっかり伝える。
31～32	エステティック③	フェイシャルパックは国家試験でも重要性があるのでしっかり伝える。ボディケア、ボディーマッサージを紹介。
33～34	10章 メイクアップ①	メイクアップ理論、顔の形態学的な観察、メイクの色彩は造形・色彩学に通じているので基本的な部分を伝える。
26～27	メイクアップ②	メイクアップ道具、スキンケア、ベースメイクアップはかなり細かいところまで伝え覚えさせる。
35～36	メイクアップ③	アイメイクアップ、アイブロウメイクアップ、リップメイクはかなり細かいところまで伝え覚えさせる。
37～38	メイクアップ④	ブラッシュオンメイクアップ、まつ毛エクステンションは現在の現状交えて説明。
39～42	6章 ヘアセッティング①	ヘアパーティング、ヘアシェーピング含めヘアセッティングとは何かを説明。
42～45	ヘアセッティング②	ヘアカーリング、ヘアウエービング、ローラーカーリング、ブロードライの詳細を伝える。
46～49	ヘアセッティング③	アイロンセッティング、バックコーミング、アップスタイル、ウィッグ・ヘアピースの詳細を伝える。
50～43	7章 ヘアカラーリング①	ヘアカラーリング概論、ヘアカラーの種類、タイプ別特徴、染毛のメカニズムはすべて重要な箇所なのでしっかり説明。
54～57	ヘアカラーリング②	色の基本、アンダートーン、パッチテスト、染毛時の注意事項、ヘアカラーリングの道具はすべて重要な箇所なのでしっかり説明。
58～60	ヘアカラーリング③	酸化染毛剤の技術手順、ヘアブリーチなどはサロンの現状を含め説明。

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習、美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論1・美容技術理論2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容技術理論						
対象科	美容科	学年	2年	必選	必須	単位数	3 (90時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋 秀典[無]						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～2	3章 ヘアデザイン	ヘアデザインの基本的を考える。
3～4	4章 ヘアカット①	ヘアカットとは、シザー、レザーの使い方などを美容技術の重要事項として伝える。
5～6	ヘアカット②	美容刃物、カットの正しい姿勢を理論的に説明。
7～8	ヘアカット③	ブロッキング、ヘアカットの基礎理論は重要事項として伝える。
9～12	ヘアカット④	ベーシックなカット技法はバリエーションとして、シザー、レザーによるカット技法はサロンの現状含めて伝える。
13～15	9章 ネイル技術①	ネイル技術概論、ネイル技術の種類はサロンの現状含めて伝える。爪の構造と機能は暗記させる。
16～18	ネイル技術②	爪のカット形状は暗記させる。ネイル技術と公衆衛生はサロンの現状含めて伝える。
19～21	ネイル技術③	カウンセリングはサロンの現状含めて伝える。ネイルケアの基本的知識を伝える。
22～24	ネイル技術④	アーティフィシャルネイルの基本的知識を伝える。手と足のマッサージは実演を絡めて覚えてもらう。
25～26	11章 日本髪①	日本髪の由来、各部の名称、種類と特徴などを紹介。
27～28	日本髪②	日本髪と調和、装飾品、結髪道具などを実物を触りながら紹介。
29～30	日本髪③	結髪技術、日本髪の手入れを紹。かつらは実物を触りながら紹介する。
31～32	12章着付けの理論と技術①	着付の目的、礼装、着物と季節、着物の色々を説明。
33～34	着付けの理論と技術②	帯、小物、着物各部の名称は詳細までしっかり伝える。着物のたたみ方を紹介。
35～36	着付けの理論と技術③	着付の一般的要領、留袖、振袖の着付技術を手順的に説明。
37～38	着付けの理論と技術④	帯締め、帯揚げの結び方、男子礼装、羽織・袴の技術を手順的に説明。
38～39	着付けの理論と技術⑤	羽織の紐の結び方、女子袴着付け技術を手順的に説明。
40～44	着付けの理論と技術⑥	婚礼着付けの際の注意事項、和装花嫁、洋装花嫁は詳細までサロンの現状含めて伝える。
45～90	技術理論 筆記試験対策授業	技術理論1・2のまとめと練習問題による総理解。

教育目標 ねらい (到達目標)	美容技術を理論的に理解することの重要性をしっかりと学ばせる。実体験では覚えきれない技術や理論を覚えることにより効率的な実習授業へと導く。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	ふつう教室にて面接形式の授業を行う。必要最低限の知識は、時に練習プリントと小テストを交え覚えてもらう。
評価方法	実技授業での理解度を観察し、定期試験結果で判断する。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	教科書を中心に行う。定期試験では60点以上を合格ラインとしている。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容実習、美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 美容技術理論1・美容技術理論2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容実習						
対象科	理容科	学年	1年	必選	必須	単位数	14 (420時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	福本稔巳[有] ヘアサロンで実務経験30年以上勤務						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～7	1章 スタンダードヘア① 基本姿勢、用具の持ち方と操作	初めてのウィッグの取り扱い、用具の取り扱いや技術を行う際の姿勢について学ぶ。
8～27	ワインディング用ウィッグのカット	ワインディング技術を行うための、準備。ワインディング用のウィッグを全部長さをそろえてカットしていく。
28～38	ワインディング①	1 2ブロッキング、ロッドの巻き方を学ぶ。
39～49	ワインディング②	センターのブロッキング、ロッド配置を理解し、ある程度コンスタントに負けるようにする。
50～70	ワインディング③	センターに合わせて、サイドのロッド配置、巻き方を学ぶ。
71～128	ワインディング④	全頭を巻けるようにし、大会に向けてタイム測定(40分)を行いながら、技術の向上をさせる。各自、時間配分を身につけさせる。
129～149	1章 スタンダードヘア②	理容の基本ヘア(ミディアムヘア、ブロー)について、カットの仕方、技術姿勢を学ぶ。
150～157	2章 デザインヘア①	デザインヘアカットの用具の持ち方、カットの仕方の基本的なことを学ぶ。
158～178	2章 デザインヘア②	ワンレングス、グラデーション、レイヤー、スクエアーなど、実際のカットの基礎技術を学ぶ。また、ブラントカット、ストロークカット、チョップカット、レザーカット等の技法について理解させる。
179～189	7章 シェービング① フェイシャルトリートメント	シェービング後の、顔面処置(てん包法、清拭法、クリームマッサージ、クリームふき取り)を、国家試験の手順に沿って学ぶ。
190～210	7章 シェービング② メンズフェイスシェービング	フェイスシェービングの基本技術について学ぶ。運行順序をきちんと学び、国家試験の手順を身につけさせる。
210～213	7章 シェービング③ メンズネックシェービング	ネックシェービングについて、国家試験の手順に沿って基本技術を学ぶ。
214～254	7章 シェービング④ メンズシェービングまとめ	国家試験の手順に沿った、顔面処置が身についたか、確認・復習をする。
255～277	7章 シェービング⑤ レディースシェービング スキンケア	レディースシェービング、スキンケアについての基本技術について、メンズシェービングとの違いに注意しながら学ぶ。
278～285	8章 ネイルケア 9章 フットケア	ハンド、フットの簡単なケアについて学ぶ。
286～293	8章 ハンド&アームマッサージ	相モデルを通して、ハンドマッサージの基本的な技術を学ぶ。
294～324	クラシカルカットとセット①	2年次の大会に向けて、クラシカルセットの為のカットを行う。合わせて、クラシカルボンバージュセットについて基本的なドライヤーセットの技術を学ぶ。
324～420	ワインディング⑤	2年次の大会に向けて、技術の向上をさせる。タイム測定30分で、Cカールワインディングとする。

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身に着けると共に、 これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人できるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に、基本的な姿勢、技術
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い、授業を受けてもらいます。 必要に応じて、小テストを行います。 定期試験は、60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発行 技術の解説 アリアーレビューティナー専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	理容の業務に必要な基本的技術を身につけるとともに、これらの技術を組み合わせた総合的な理容技術を対人でできるようにする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室において実習形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	理容師国家試験受験資格
関連科目	理容技術理論、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 理容実習1・2 理容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説 アリアーレビューティール専門学校 理容師実技試験マニュアル

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容実習						
対象科	美容科	学年	1年	必選	必須	単位数	14 (420時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	水野 亮[有]ヘアサロンで7年勤務						

授業計画 (授業の方法及び内容)

回	項目	内容
1～21	ワインディング 1	ワインディング技術を円滑にする為のブロッキング練習をして、ある程度理解が出来たらワインディング用のカットをする。
22～36	ワインディング 2	カットを終えたウィッグでワインディング用の12ブロッキングのタイムを計り、目標は3分以内を目指して行っていく。ワインディング技術である巻き方の上巻きと下巻きの指導を行う。
37～65	ワインディング 3	ブロッキングと巻き方を理解したらセンター巻きのタイム計測を行い、目標は10分以内を目指す。出来るようになったらサイド巻きのタイム計測も行い目標タイムは右が15分左が12分で計測する。
66～122	ワインディング 4	全頭の巻き方を理解したところで全体のタイムを計る。目標タイムは40分以内を目指して行う。
123～135	浴衣着付け 1	帯の締め方を理解し自分自身で浴衣を着れるようにする。
136～142	浴衣着付け 2	2人一組でペアになりお互いに浴衣を着付ける。お互いで指摘し合い綺麗に着付けが出来るようにする。
143～157	ヘアウエービング 1	ウエーブ技術を円滑に行うためにウィッグにパーマをかけ、出来上がったウィッグに専用のローションを使用しフィンガーウエーブの準備をしていく。最初はハーフウエーブから作って出来たハーフウエーブにリッジを作っていく。
158～200	ヘアウエービング 2	フィンガーウエーブのみで7段構成を作っていく練習をする。1段目は馬蹄形にウエーブを作っていく。2段目は1段目とのつながりに気をつけてウエーブを作り、3段目はバランスに気をつけて作る。
201～236	ヘアウエービング 3	4段目から7段目までを作る。その際に5段目、6段目のウエーブは耳にあたらないように作るようにする。
237～279	ヘアウエービング 4	ノーパートフィンガーウエーブ7段構成のタイムを計測する。目標タイムは40分。
280～288	ネイル 1	爪の形を綺麗に整えるためにファイリングを行い、その後キューティクル処理を行って、カラーエナメル等が綺麗に塗れる準備をする。
289～301	ネイル 2	爪の形と表面が綺麗になっている状態でカラーエナメルを塗布する。その後より綺麗にみせるためのトップコート塗布する。
302～320	ノーパート7段構成 1	1段目と3段目スカルプチュアカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。
321～338	ノーパート7段構成 2	4段目リフトカール作り方とクローズ打ち 5段目リフトカール作り方とオープン打ちどちらもバランスをみながら作る。
339～355	ノーパート7段構成 3	1段目から5段目までのピンカールを理解したら、そこまでの構成のタイムを計る。目標は25分。
356～374	ノーパート7段構成 4	6段目メイボールカール7段目クロッキノールカールの作り方とバランスとピンの打ち方の理解と実践。
375～399	ノーパート7段構成 5	ノーパート7段構成のタイムを計る。目標は40分。その際のバランスや仕上がりが綺麗に作れるようにする。
400～406	エステ 1	ターバンをしてクレンジングの際に毛髪が邪魔にならないようにする。その後はポイントメイク落としをしてクレンジング剤を使用して、顔とデコルテのクレンジングを行う。
407～413	エステ 2	あらかじめ人肌程度にマッサージオイルを温めて塗布していきデコルテから顔へとまんべんなくのばして、マッサージをする。
414～420	エステ 3	デコルテからマッサージをしてその後フェイシャルマッサージを手順に沿って行っていきスチームタオルでふき取りをした後に取れん化粧水で仕上げをする。

教育目標 ねらい (到達目標)	国家試験科目である技術の基礎を身につけること。他の美容技術への理解と実践
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	国家試験科目は主に教室で行い、必要に応じて教員も見本例などを展示する。他の美容技術は主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、実技試験、授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家試験受験資格
関連科目	美容技術理論 美容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンに必要な技術を経験させ身に着けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。
評価方法	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。
資格対応	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。
関連科目	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発刊 美容実習1・2 美容技術理論1・2 公益社団法人理容師美容師試験研修センター発刊 技術の解説

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度		○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力		○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につけ、現場で実践することが出来る。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②①で得た知識を、演習を通し基本の形を学びます。 ③更に演習を通し対応される側(お客様)と、対応する側(スタッフ)の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①校則に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接遇検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアール接遇検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NPO法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につけ、現場で実践することが出来る。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②①で得た知識を、演習を通し基本の形を学びます。 ③更に演習を通し対応される側(お客様)と、対応する側(スタッフ)の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①校則に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接遇検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアール接遇検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NPO法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につけ、現場で実践することが出来る。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②①で得た知識を、演習を通し基本の形を学びます。 ③更に演習を通し対応される側(お客様)と、対応する側(スタッフ)の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①校則に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接遇検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアール接遇検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NPO法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	①基本的なビジネスマナーを身につけ、現場で実践することが出来る。 ②積極的なコミュニケーションを作り出せる。 ③状況に応じて適切に判断し活用できる。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	①講義形式でマナーの知識、必要性を学びます。 ②①で得た知識を、演習を通し基本の形を学びます。 ③更に演習を通し対応される側(お客様)と、対応する側(スタッフ)の立場の理解を深めます。
評価方法	①定期試験 ②授業の出席状況 ③学習態度、取り組み状況等
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	①校則に準じた受講内容。 ②定期試験は、60点以上を合格とする。 ③接遇検定実技試験は、60点以上を合格とする。
資格対応	①アリアール接遇検定実技試験
関連科目	①運営管理 ②インターンシップ
テキスト 及び 参考文献	「接客サービスマナーベーシックマニュアル」NPO法人日本サービスマナー協会監修

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい	理美容の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけると共に 自分らしいカラー（=魅力）を引き出してもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 授業の出欠状況 ・ 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします
資格対応	パーソナルカラリスト検定 3級 （希望者のみ2級）
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

教育目標 ねらい	理美容の業務に関係する色彩知識やセンスを身につけると共に 自分らしいカラー（=魅力）を引き出してもらう
授業の概要	教室において講義形式でテキストを進めるが、単に色ではなく色とのつながりの深さを理解してもらう
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験 ・ 授業の出欠状況 ・ 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます 練習問題や作品を提出してもらいます 定期試験は60点以上を合格とします
資格対応	パーソナルカラーリスト検定 3級 （希望者のみ2級）
関連科目	モード
テキスト 及び 参考文献	

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関 係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

【Sレベル】 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。

【Aレベル】 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。

【Bレベル】 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。

【Cレベル】 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	パーソナルカラーアナリストとして各方面で指導
----------------------	------------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	法制度の概要を再度復習した上で、国家試験を見据え、わが国の衛生行政のしくみ、理容師法・施行令・施行規則について、また理容の業に関係する法律・制度についての問題演習をする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	理容師の資格は法律により規定され、理容師でなければ理容を業とすることはできない。このため理容師に必要な法知識を習得する必要がある。1年生の時（関係法規・制度）に法制度の概要からわが国の衛生行政、理容師法の要求する理容師・理容所についての規定を理解したが、理容師法以外の関係法規についても知識を深めることとする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	法制度の概要を再度復習した上で、国家試験を見据え、わが国の衛生行政のしくみ、理容師法・施行令・施行規則について、また理容の業に関係する法律・制度についての問題演習をする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月理容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人と行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	1年生の時に学んだ運営管理の概要を再度復習する中で、新たに国家試験科目（追加）になった事を見据えながら、店舗（理容店）の運営管理に必要な（人・モノ・お金）のしくみについて解説し、また経営者としての企業法務に関する法律・制度についての解説・演習をする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	2020年3月美容師国家試験より「運営管理」が試験課目に追加されます。運営管理とはその名の通り（店舗）を運営し、（人・モノ・お金）を管理することであり、この授業では、大きく分けて業務を行う人を行う場所（施設）の2つを対象として、規制のしくみを考えます。人として「しなければならない」事や「してはならない」事の決まりを同様に施設（経営者）の視点からも考える。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	1年生の時に学んだ運営管理の概要を再度復習する中で、新たに国家試験科目（追加）になった事を見据えながら、店舗（理容店）の運営管理に必要な（人・モノ・お金）のしくみについて解説し、また経営者としての企業法務に関係する法律・制度についての解説・演習をする。
評価方法	成績は基本的に期末試験の得点によって評価する。なお、期末試験の得点が60点未満の者に対しては再試験をし60点以上を合格、再度60点未満の場合はテスト補習を行う。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	美容師国家試験受験資格に準ずる
関連科目	関係法規・制度、運営管理
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター 関係法規・制度、運営管理、社会福祉

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論1・理容技術理論2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい	理容技術理論、理容実習、理容総合技術等で得た技術をより今後のサロンワークに活かせるよう、さらに細かいところまで知識の向上を目指す。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく教科書から重点的な部分をさらに掘り下げ、現場での体験を織り交ぜてより理解度を深めてもらう。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	理容技術理論、理容実習、理容総合技術
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論1・理容技術理論2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい	対サロンワークで今後実際に起こりうるであろう外国人対策と、国家試験（筆記）を合格するために、いろいろな問題集などを用い理解度を深める。
授業の概要	教室において講義形式にて授業を進める。教科書全般だけではなく問題集などから理解度を深め、国家試験（筆記）の合格率を高める。
評価方法	1. 授業の出欠状況 2. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。小テストをおこないます。
資格対応	
関連科目	関係法規、運営管理、衛生管理、理容保健、化粧品化学、理容文化論、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 ワークブック、外国語

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度		○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	美容総合理論【他】						
対象科	美容科	学年	2年	必選	選択	単位数	4 (120時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	高橋 秀典[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～4	法規・制度 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
5～8	法規・制度 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
9～12	技術理論 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
13～16	技術理論 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
17～20	技術理論 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
21～24	美容保健 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
25～28	美容保健 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
29～32	物理・化粧品化学 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
33～36	物理・化粧品化学 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
37～40	衛生管理 ワークブック①	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
41～44	衛生管理 ワークブック②	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
45～48	衛生管理 ワークブック③	指定範囲を自己勉強し、採点まで行う。
49～64	衛生管理 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
65～80	物理・化粧品化学 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
81～96	美容保健 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
97～112	技術理論 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
113～116	法規・制度 練習問題	質疑応答&解答考察・・・練習問題により多角的・応用的に理解を深める。
117～120	筆記対策模擬テスト	総合評価確認のため5科目を模擬筆記試験形式で行う。マークシートの記入要領も指導。自己採点をさせ欠点を洗い出す。

教育目標 ねらい	国家試験筆記対策として当該科目の理解度を高める。
授業の概要	ワークブック、練習問題教材を使用して多角的に理解させる。
評価方法	事項採点、自己解決の方式もとるが、模擬テストでは細分化したテスト結果を総合評価（順位発表）をして勉強の取組自体を考えさせる。
受講心得	1か月の期間にどこまで受験対策ができるかを常に心得させます。
資格対応	美容師国家資格取得を目指す。
関連科目	関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・化粧品化学、技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行・・・関係法規・制度、衛生管理、美容保健、物理・化粧品化学、技術理論1・2、ワークブックなど

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度	○		○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

授業計画表

教科名	理容モード理論						
対象科	理容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数字的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等書いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界3大コレクション・ブランド名・洋服の名称(1)等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称(2)テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

授業計画表

教科名	美容モード理論						
対象科	美容科	学年	1年	必選	選択	単位数	2 (60時間)
担当教員 <small>(実務経験の有無)</small>	稲垣千津子[無]						

授業計画		
回	項目	内容
1～2	第1章 鉛筆の削り方 第2章 顔のプロポーション	短時間で形のよい顔のプロポーションの描き方を数字的に分割する方法を理解しながら鉛筆で下描きしていく。
3～4	第3章 顔の部分練習、基礎編 第4章 顔の描き方、正面向き	レディースの正面向きで目の描き方、鼻の描き方、口の描き方等書いていく。
5～6	第6章 ヘアの描き方	球体を線で表現する方法を学び、毛先の表現、陰影のつけ方、ヘアスタイルを考え、レディースの下描きを完成させる
7～10	第2章、第3章、第6章のまとめ	メンズの正面向きの下書き、ヘアスタイルを考え、下描きを完成させる。
11～12	応用イラスト	下描きしたメンズ、レディースのヘアスタイル画をケント紙に描き写す。
13～14	応用イラスト	パステル、色鉛筆の画材の使い方を学ぶ
15～18	応用イラスト	パステル、色鉛筆、ねり消しゴム、コットン綿棒等を使用して、メンズ、レディースのヘアスタイル画を着色し完成させる。
19～20	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	正面向きと比べ左右のバランスの違いを理解する。 鉛筆下描き。
21～24	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	斜め向きは、トップ・サイド・ネープと見えるので、ヘアデザインを考えてケント紙にパステル、色鉛筆で着色する。
25～26	コンテの使い方	身近な果物、リンゴを使い、コンテの使い方、陰影、球体の表現方法のテクニックを学ぶ。
27～28	写実的な描き方	写真のヘアスタイルを見ながら、下描きを描く。
29～34	写実的な描き方	画用紙に下描きを描き写し、コンテで着色していく。 消しゴム、さっ筆、綿棒等を使い、髪の毛の流れや光を表現していく。
35～38	第4章 顔の描き方、斜め向き レディース、メンズ	横向きのヘアスタイルのデザインをし、画材は黒のサインペンのみで仕上げる。背景を点描画でデザインする。
39～42	修了作品 製作	2年生時の学生大会提出用の作品に取りかかる。自分の描きたいヘアスタイル、ポーズ等を考え、B3サイズに下描きする。
43～44	ファッションの基礎知識①	世界3大コレクション・ブランド名・洋服の名称(1)等を理解する。
45～46	修了作品製作	下描きを完成させ、B3ボードに描いていく。
47～54	修了作品製作	コンテ、消しゴム、さっ筆等を使用し、髪の毛の流れや光の当たり方等、丁寧に描き込む。
55～56	ファッションの基礎知識②	洋服の名称(2) テキスタイル、靴の名称を理解する。
57～60	修了作品製作	背景を考え、テーマに沿ったイメージで全体的にバランスよく仕上げていく。

教育目標 ねらい	ヘアスタイル画を描きながら、顔のバランス等を正確に観察する力を養い、自分のイメージしたデザインを言葉だけでなくデザイン画で表現できるようにする。又、ヘアデザインの創作的な技術やトータルファッションの知識も身につけセンスや感性を磨いていく。
授業の概要	教科書や写真、実物を見ながら色々な画材を使い、デザイン画の作品を仕上げていく。
評価方法	1、定期試験 2、授業の出欠状況 3、作品提出 4、授業受講の熱心さ
受講心得	テーマごとの作品を仕上げます。 定期試験は60点以上を合格とし、その中に作品の点数も含まれます。
資格対応	特になし。
関連科目	
テキスト 及び 参考文献	社団法人日本理美容教育センター ヘアスタイルによるトータルファッション 織部企画 新ファッションビジネス基礎用語辞典

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の 関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	
----------------------	--

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	
関連科目	理容実習、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	サロンワークやトータルビューティの技術を身につけること。他の美容技術への理解と実践。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	主に実習室を使用し、専門道具等の使い方を理解する。
評価方法	定期試験、授業態度
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	美容師国家資格
関連科目	美容技術理論 美容実習
テキスト 及び 参考文献	美容技術理論 美容実習

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○	○	○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○	○	○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の 実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
--------------------------	-------------------

教育目標 ねらい	理容実習で覚えた技術をさらに発展、向上させることにより、技術大会や今後のサロンワークに役立てられるようにしたり、より実践的な技術を覚える。
授業の概要	教室や実習室を使い、講義形式や相モデル等を用い実習形式で授業を行う。行う項目により別紙テキストを用いてより細かな知識を得て今後現場にて役立てられるようにする。
評価方法	1. 定期試験 2. 授業の出欠状況 3. 授業受講の熱心さ
受講心得	校則に従い授業を受けてもらいます。定期試験は60点以上を合格とします。
資格対応	
関連科目	理容実習、理容技術理論
テキスト 及び 参考文献	公益社団法人日本理容美容教育センター発行 理容技術理論 1・理容技術理論 2 理容実習 1・理容実習 2

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・ 意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	理容師免許を有し理容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	時には自己表現も含めた自由な課題制作や、選択した課題に向けて取り組ませ到達レベルに合った期限と水準を求めることにより、社会の厳しさなども体感してもらう。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	コンテスト、作品制作、フォトシューティング、サロンに必要な技術を経験させ身に付けさせる。また、国家試験実技課題の練習を1年間で繰り返し行い基本技術と自信を身につけさせる。
評価方法	担任の指定した基準を提出期限含め審査する。担任だけでなく外部（プロ・一般）の投票や意見も反映させた評価方法をとる。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	課題の完成や到達レベルには自己研鑽が必要なことを心掛けさせる。
資格対応	コンテスト入賞、美容師国家試験の合格を目指す。
関連科目	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理
テキスト 及び 参考文献	美容実習1、美容技術理論1・2、衛生管理、パーソナルカラーリスト検定テキスト、美容師国家試験「技術の解説」、美容師国家試験「受験案内」、美容衛生読本

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法の関係及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度		○	○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○		○
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度			○
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力			○

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

- [Sレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を満たしている。
- [Aレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をほぼ満たしている。
- [Bレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標をかなり満たしている。
- [Cレベル] 単位を修得するために達成すべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験 の有無について	美容師免許を有し美容所において勤務
----------------------	-------------------

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）
テキスト及び参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	
------------------	--

教育目標 ねらい (到達目標)	私たちが生まれてから死ぬまでの一生の間には、就職や結婚、出産や育児などを経験すると共に病気やけが、転職や失業、また高齢になって収入がなくなったり、介護が必要になったりとさまざまな生活上の困難に直面します。その事態を緩和・軽減する社会保障に関する基礎的な知識を身につけることを目標とする。
授業の概要 (授業期間全体を通じた授業の進め方)	<ul style="list-style-type: none"> ・「社会保障」 生活水準の低下を防ぐ所得保障、傷病の治療と健康の維持・回復を目的とする医療保障、高齢者・障害者及び母子家庭など生活上のハンディキャップをもつ人々に対し個別のサービスを提供する社会福祉を学ぶ。 ・「福祉社会」 高齢者や障害者をはじめとして誰にでもやさしい福祉社会を実現することを学ぶ。本来、社会とは小さな子ども、障害者や高齢者などさまざまな人々で成り立っており、福祉社会とはすべての人々が協力して幸せな生活を送ることを意味する。
評価方法	まずは出席率75%以上必要。出席時間不足のための補習は行うが別途有料になる。単位認定は定期試験60点以上。レポート課題は特に予定していない。
受講心得 (準備学習の具体的な内容)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は所定の名札を着用すること。 ・教員に対して失礼にならない服装で授業を受けること。 ・授業開始時と終了時には、教員に「起立～礼～着席」の挨拶を行うこと。 以下、アリアーレビューティー専門学校 学則細則 第2章 「授業等に関する事項」に準ずる。
資格対応	理容師国家試験
関連科目	「運営管理」第2編 第3章 従業員としての視点から（公的年金・医療保険・労働保険）
テキスト及び参考文献	公益社団法人 日本理容美容教育センター「社会福祉」テキスト

成績評価基準

到達目標の各観点と成績評価方法及び配点	テスト (定期試験)	提出物 (レポート・作品等)	無形成果 (取り組む姿勢・態度・意欲・出席率)
【関心・意欲・態度】 ※学修に取り組む関心度			○
【知識・理解】 ※教科の理解度	○	○	
【技能・表現・コミュニケーション】 ※専門知識の理解度	○		
【思考・判断・創造】 ※考え抜く力	○		

※表内の○印を評価の対象とする。

※対象となる箇所にはそれぞれ達成水準を設ける。達成水準は以下の通りです。

[Sレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を満たしている。

[Aレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をほぼ満たしている。

[Bレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標をかなり満たしている。

[Cレベル] 単位を修得するために達成するべき到達目標を一部分満たしている。

担当教員の実務経験の有無について	
------------------	--